

斑鳩小学校遺跡・竹広遺跡・矢田部遺跡

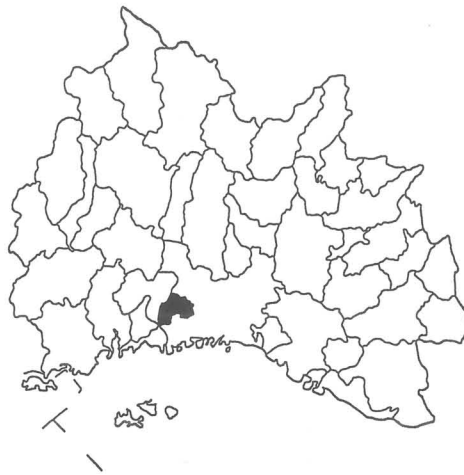
—防火水槽設置に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2005年3月31日

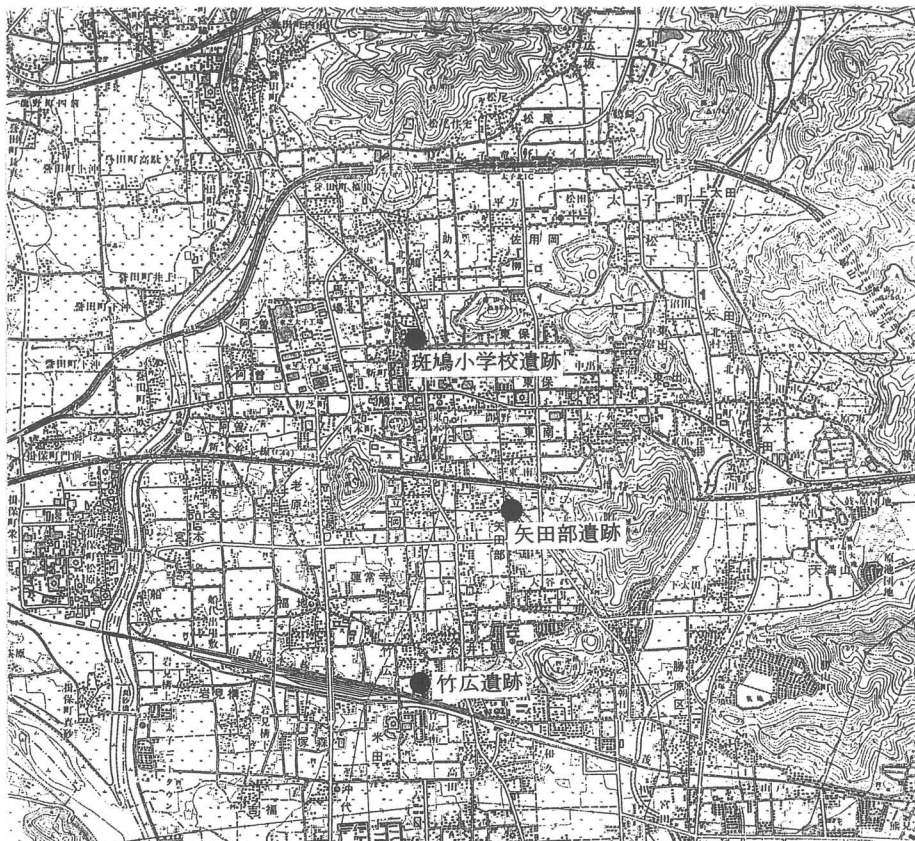
太子町教育委員会

例 言

1. 本書は、斑鳩小学校遺跡・竹広遺跡・矢田部遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、防火水槽設置工事に伴うもので、斑鳩小学校遺跡は平成 14 年度に、竹広遺跡は平成 15 年度に、矢田部遺跡は平成 16 年度にそれぞれ実施した。
3. 調査は、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課三村修次・海野浩幸が担当した。
4. 調査にあたっては、揖龍広域シルバー人材センターの協力を得た。
5. 本書に使用した標高は、T. P を基準とし、方位は磁北を使用した。
6. 本書の執筆・編集は、三村・海野が担当した。
7. 本報告書に係る図面・写真は、太子町教育委員会が保管している。



太子町位置図



遺跡位置図

本文目次

例言

| | |
|------------|---|
| I. 斑鳩小学校遺跡 | 1 |
| II. 竹広遺跡 | 3 |
| III. 矢田部遺跡 | 6 |

挿図目次

太子町位置図

遺跡位置図

| | |
|----------------|---|
| 第1図 調査位置図 | 1 |
| 第2図 調査区配置図 | 1 |
| 第3図 土層断面図 | 2 |
| 第4図 調査位置図 | 3 |
| 第5図 調査区位置図 | 3 |
| 第6図 遺構平面・断面図 | 4 |
| 第7図 調査位置図 | 6 |
| 第8図 調査区配置図 | 6 |
| 第9図 遺構平面・土層断面図 | 7 |

図版目次

斑鳩小学校遺跡

- 図版1
1. 北壁土層断面（南から）
 2. 東壁土層断面（西から）

竹広遺跡

- 図版2
1. 調査区全景（北から）
 2. 溝（東から）
 3. 溝土層断面

矢田部遺跡

- 図版3
1. 調査区全景（南から）
 2. 同（北から）
 3. 北東端自然流路

斑鳩小学校遺跡(第2次調査)

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町鶴字柳ノ内 1190 番地

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 三村修次

4. 調査期間

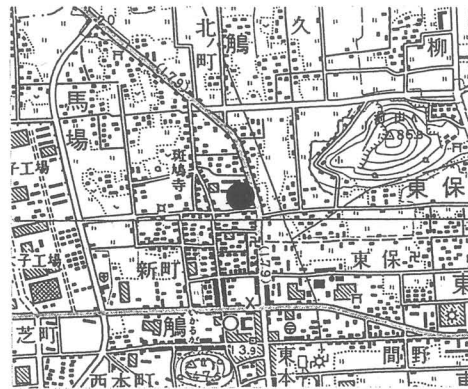
平成 14 年 12 月 22 日～12 月 24 日

5. 調査面積

16 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/500)、遺物実測図 写真記録(デジタルカメラ撮影)
北緯(34 度 50 分 02 秒)、東経(134 度 34 分 51 秒)



第 1 図 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

今回周知の埋蔵文化財である斑鳩小学校遺跡の包蔵地内である同校の校庭東端において、防火水槽の設置工事が計画され、冬休み中に設置したいとの要望により試掘・確認調査を実施した。

調査地は、法隆寺領播磨国鶴荘絵図(嘉暦四年)の十八条「平方四条二反 東保」に位置し、また鶴村絵図(明治六年)では、「字苗代田」として記載されている。なお、調査地の標高は 16.00m 前後を測る。

8. 調査の概要

調査の土層は、校庭造成盛土(1.0m)、耕土(10～40cm)で砂礫層・地山となっており、遺構は砂礫層を掘り込んで作られており、現在の校庭直下から遺構検出面までの深さは約 1.1m を測る。

検出した遺構には、弥生時代後期から古墳時代前期の溝状遺構と中世の土坑、さらに近世の耕作に伴う畦畔遺構が検出された。

9. 出土遺物

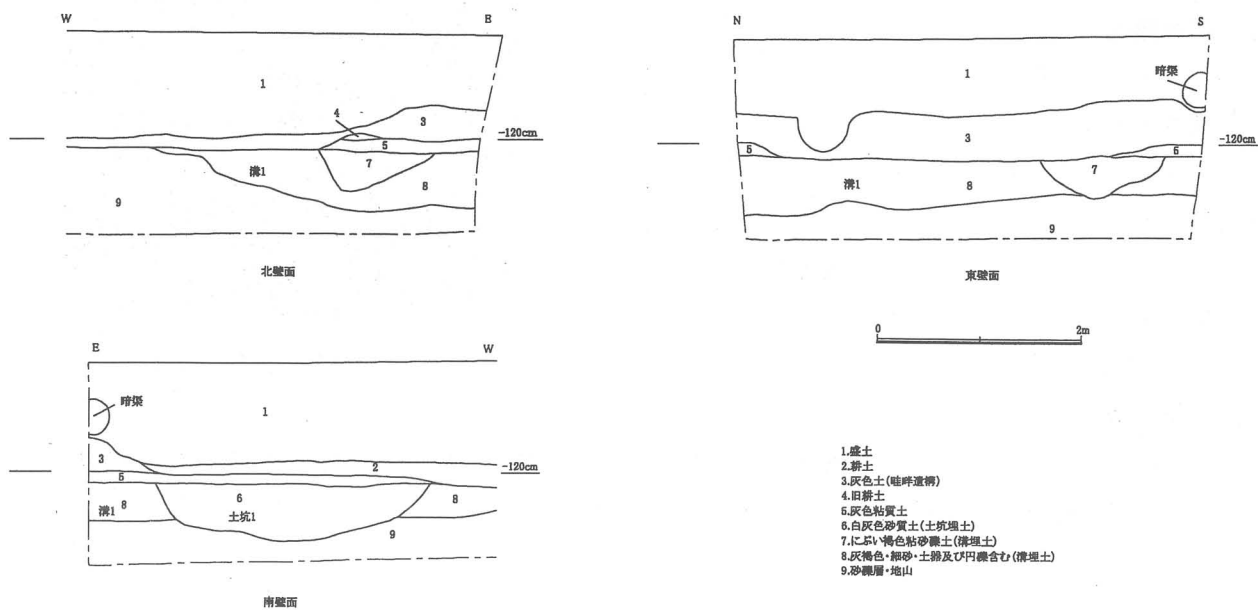
溝状遺構から若干の弥生式土器片と、土坑から土師器・須恵器片が数点出土した。



第 2 図 調査区配置図(1/2,000)

10. まとめ

今回の調査結果、斑鳩小学校遺跡は遺構・遺物の検出状況から以前の調査結果とあわせて、弥生時代後期から中世、江戸時代の寺院遺構が所在する複合遺跡であることが判明した。溝内から検出された弥生式土器・土師器片から付近に当該時期の遺構が存在する可能性がある。

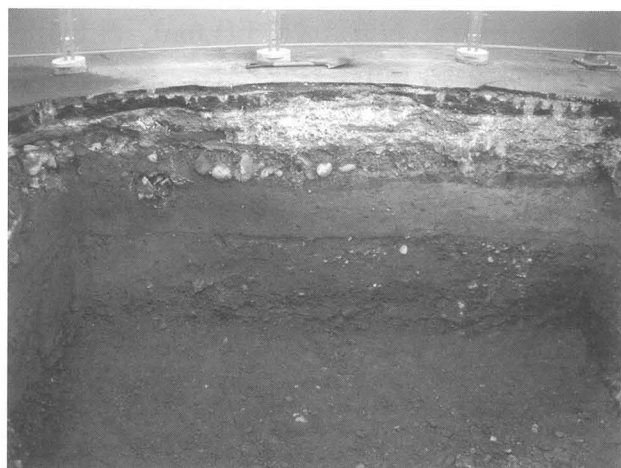


第3図 土層断面図

図版 1



1. 北壁土層断面 (南から)



2. 東壁土層断面 (西から)

竹広遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町竹広字長金 114-1 番地

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 15 年 11 月 13 日～11 月 17 日

5. 調査面積

32 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、遺構実測図 (1/40)、調査区配置図(1/500)、写真記録(デジタルカメラ撮影・カラー35 mmネガ/ポジ・カラー120 mmポジ 6×7 版)、北緯(34 度 48 分 49 秒)、東経(134 度 34 分 50 秒)

7. 調査に至る経過

太子町竹広字長金 114-1 番地において防火水槽の設置が計画され、設置予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲には含まれないが、西方約 500m のところには福地宮ノ前遺跡 (450216) が、また J R 山陽本線を挟んで南東約 400m のところには鍛冶田遺跡 (450215) が所在することから、遺構及び包蔵層の有無を確認するため試掘確認調査を実施した。周辺は標高 8m 前後を測り、調査地の現況は盛土造成が行われて露天駐車場として使用されている。

8. 調査の概要

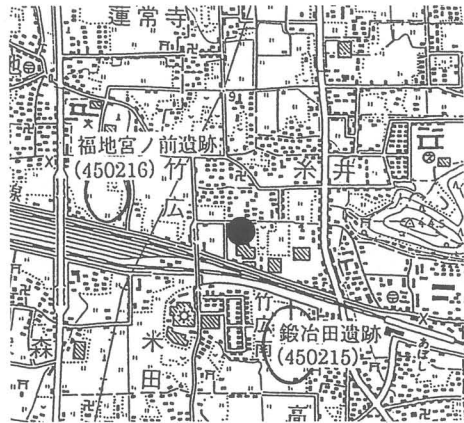
調査は、4×8m の調査区を設定して実施した。

調査地の基本土層は、約 40cm の造成盛土の下で耕土 (約 20cm)、黄色土・床土 (約 6cm) で小円礫混じりの淡褐色砂質土・地山となっており、この地山面で掘立柱建物跡 1 棟と、東西に走る溝 1 条を検出した。

遺物は、床土中から磨耗した須恵器片 1 点が出土しただけで、遺構からの出土は見られなかった。

掘立柱建物

桁行 3 間、梁行 1 間が検出されたが、さらに広がる可能性も有る。主軸をほぼ南北にとる南北棟建物と考えられ、桁行 6m、梁行 2m を測り、柱間は桁行で 1.8～2.1m、梁行で 2m を測る。



第 4 図 調査位置図(1/25,000)

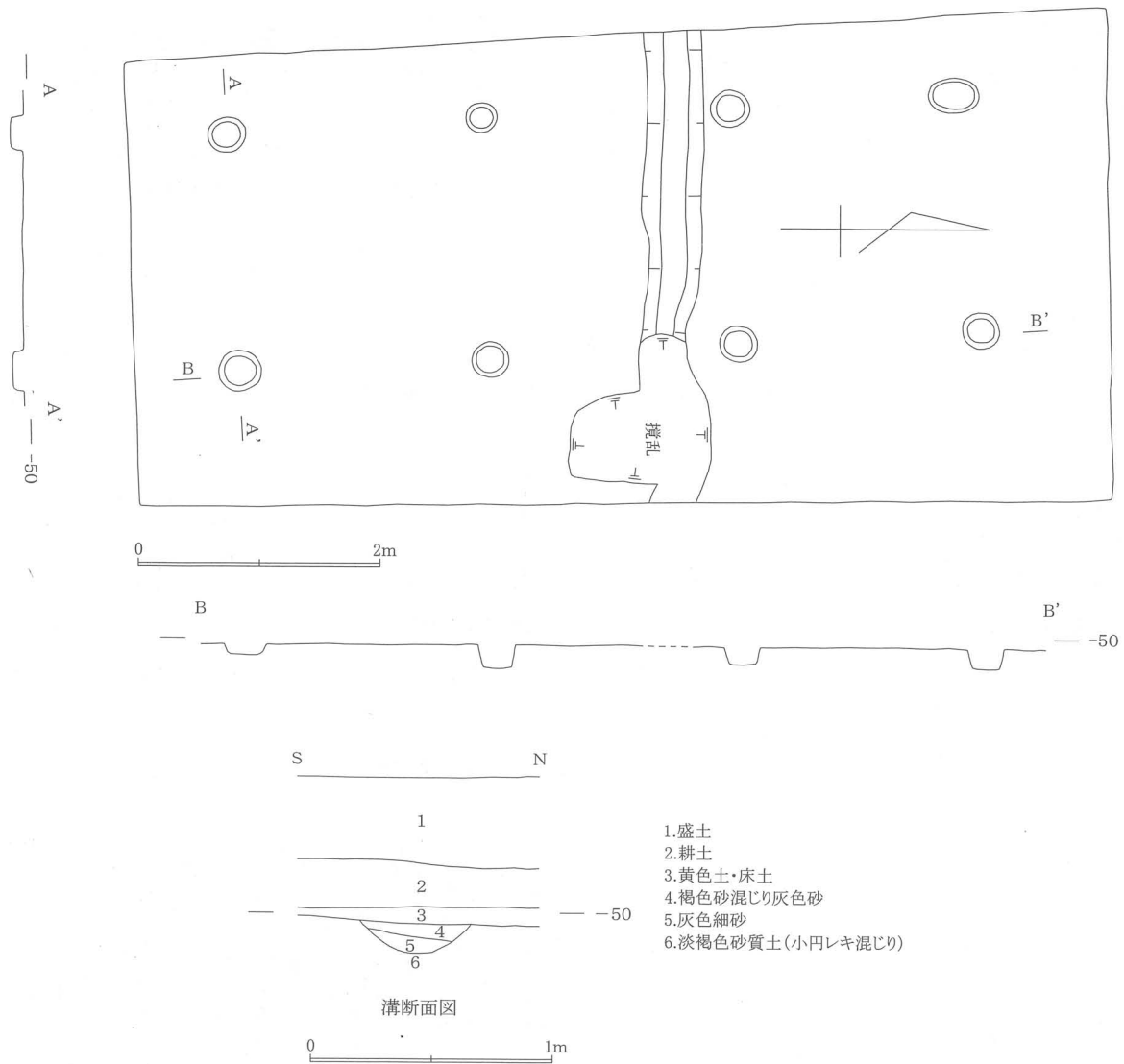


第 5 図 調査区位置図 (1/5,000)

柱穴は、直径 30～35cm、深さ 10～20cm を測り、埋土は淡黄灰色土である。遺物は出土しなかった。

溝

調査区中央部で検出され、東西方向に走る。幅 40cm、深さ 20cm を測り、断面形は浅い U 字状を呈する。埋土は、上層に褐色砂混じりの灰色砂、下層に灰色細砂の 2 層からなる。遺物は出土しなかった。



第 6 図 遺構平面・断面図

9. まとめ

調査の結果、掘立柱建物跡と溝を検出した。調査地周辺はこれまで遺跡の存在が知られていなかった地域であるが、今回限られた調査範囲ではあるが、遺構を検出することにより、遺跡が存在することが判明した。しかし、遺構の時期については出土遺物が無く、特定することはできなかったが、埋土の観察から中世以降のものと考えられる。遺跡の性格については、今後の調査成果をまちたい。

なお、遺跡の名称は地区名をとって『竹広遺跡』と呼称することにした。

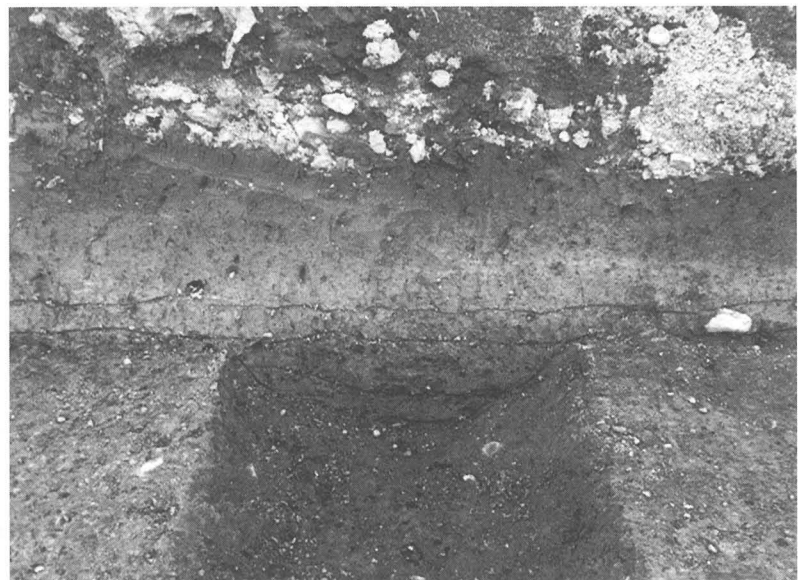
1. 調査区全景（北から）



2. 溝（東から）



3. 溝土層断面



矢田部遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町矢田部字才ノ上 277-1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 16 年 12 月 20 日～24 日

5. 調査面積

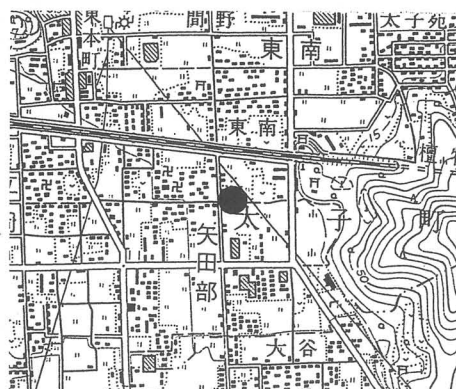
42 m²

6. 記録作成

遺構平面図(1/20)、土層実測図(1/20)、調査区配置図(1/300)、

写真記録(デジタルカメラ撮影、カラープリントリバーサル・35mm、カラープリントリバーサル・120mm)、

北緯(34度49分26秒)、東経(134度35分14秒)



第7図 調査位置図(1/25,000)

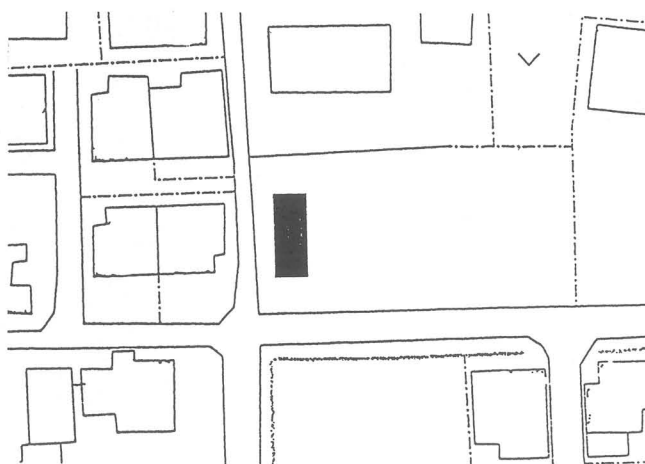
7. 調査に至る経過

太子町矢田部字才ノ上 277-1 において防火水槽の設置が計画され、設置予定地は周知の遺跡である矢田部遺跡の包蔵地内であるため発掘調査を実施した。調査地は、標高 11m 前後を測り、現況は露天駐車場として利用されている。

8. 調査の概要

調査は、防火水槽設置箇所に 4×11m の調査区を設定して実施した。調査地の土層は、造成盛土(60cm)、耕土(14cm)、褐灰色砂質土・床土(18cm)、灰色砂質土(4cm)で小礫混じりの茶褐色土・地山となっている。

遺構は、この地山面で土坑・ピット、調査区北東端で自然流路を検出した。遺物は、床土と土坑 2 基から土師器・須恵器の小片が若干出土しただけである。



第8図 調査区配置図(1/1,000)

9. まとめ

今回の調査の結果、土坑・ピット等の遺構を検出した。遺構は調査面積に比較して密度は濃いものであるが、検出されたピットには一つの建物跡として纏まるものは無かった。

限られた範囲での調査のため、また、出土遺物が極端に少なかったため、遺構の時期や性格を把握することはできなかったが、遺構の密度は濃く、矢田部遺跡の中心部に近いと思われる。

1. 調査区全景（南から）



2. 同（北から）



3. 北東端自然流路



報告書抄録

| | |
|--------|---|
| ふりがな | いかるがしょうがつこういせき・たけひろいせき・やたべいせき |
| 書名 | 斑鳩小学校遺跡・竹広遺跡・矢田部遺跡 |
| 副書名 | 防火水槽設置に伴う埋蔵文化財発掘調査 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 太子町文化財資料 |
| シリーズ番号 | 第72集 |
| 編著者名 | 三村修次 海野浩幸 |
| 編集機関 | 太子町教育委員会 |
| 所在地 | 〒671-1561 揖保郡太子町鷗 1369-1 TEL.0792-77-1017 |
| 発行年月日 | 西暦 2005年 |

| | | | | | | |
|--------|---|-------------|--------------|------------------------|------|--------|
| 遺跡名 | いかるがしょうがつこういせき 斑鳩小学校遺跡 (第2次調査) | | | | | |
| 所在地 | いぼぐんたいしちよういかるがあざやなぎのうち 揖保郡太子町鷗字柳ノ内1190番地 | | | | | |
| コード | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積(m ²) | 調査原因 | |
| 市町村 | 遺跡番号 | 34° 50' 02" | 134° 34' 51" | 2002・12・22 | 16 | 防火水槽設置 |
| 284645 | 450016 | | | ~12・24 | | |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | |
| 鷗小学校遺跡 | 集落跡 寺院跡 | 弥生時代 ~近世 | 土坑・溝 | 弥生式土器・土師器 須惠器・近世陶磁器 | | |

| | | | | | | |
|--------|---|-------------|--------------|-----------------------|------|--------|
| 遺跡名 | たけひろいせき 竹広遺跡 | | | | | |
| 所在地 | いぼぐんたいしちようたけひろあざちようきんきん114-1ばんち 揖保郡太子町竹広字長金114-1番地 | | | | | |
| コード | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積(m ²) | 調査原因 | |
| 市町村 | 遺跡番号 | 34° 48' 49" | 134° 34' 50" | 2003・11・13 | 32 | 防火水槽設置 |
| 284645 | 450081 | | | ~11・17 | | |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | |
| 竹広遺跡 | 集落跡 | 中世 | 溝・掘立柱建物 | 須惠器 | | |

| | | | | | | |
|--------|--|-------------|--------------|-----------------------|------|--------|
| 遺跡名 | やたべいせき 矢田部遺跡 | | | | | |
| 所在地 | いぼぐんたいしちようやたべあざさいのかみ 揖保郡太子町矢田部字才ノ上277-1番地 | | | | | |
| コード | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積(m ²) | 調査原因 | |
| 市町村 | 遺跡番号 | 34° 49' 26" | 134° 35' 14" | 2004・12・20 | 42 | 防火水槽設置 |
| 284645 | 450017 | | | ~12・24 | | |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | |
| 矢田部遺跡 | 集落跡 | 中世 | 土坑・ピット | 土師器・須惠器 | | |

